

# 鯖江市教育委員会

## 1月定例会会議録

平成31年1月11日（金）

## 1 会議概要

- 日 時 平成31年1月11日(金) 午後2時54分開会  
午後5時01分閉会
- 場 所 鯖江市役所4階第2委員会室
- 出席委員  
辻川 教育長  
笹本 教育長職務代理者 福岡 委員  
蓑輪 委員 中村 委員
- 欠席委員  
なし
- 出席説明員  
軽部 事務部長 浮山 まなべの館館長  
鈴木 教育審議官 服部 教育政策・生涯学習課長  
西山 文化の館副館長 前田 文化課長  
田畑 国体・スポーツ推進課長 田中 子育て支援課長
- 欠席説明員  
畠中 健康福祉部長
- 書記  
吉田 教育政策グループリーダー
- 議事日程
  - (1) 開会の宣告 午後2時54分開会
  - (2) 会議録署名人の指名 福岡 委員 中村 委員
  - (3) 報告事項
  - (4) 議案
    - 議案第1号 平成30年度鯖江市教育委員会3月補正予算要求の概要について 可決
    - 議案第2号 平成31年度鯖江市教育委員会当初予算要求の概要について 可決
    - 議案第3号 平成30年度鯖江市教育委員会感謝状授与の決定について 可決
  - (5) 教育長の報告
  - (6) その他
    - ① 平成30年度卒業式日程および委員の出席割振りについて
    - ② その他
    - ③ 次回開催予定等について  
2月定例教育委員会開催予定

日 時 2月22日(金)午後3時  
場 所 鯖江市役所 4階第2委員会室  
(7) 閉会の宣告 午後5時01分閉会

## 2 会議次第

### (1) 報告事項

なし

### (2) 議案審議

議案第1号 平成30年度鯖江市教育委員会3月補正予算要求の概要について

#### 【説明】

教育政策・生涯学習課長、国体・スポーツ推進課長が「平成30年度鯖江市教育委員会3月補正予算要求の概要について」説明

#### 【質疑】

<委員>

教育振興基金とは、基金に寄附をしてそれを何か補助するものか。

<教育政策・生涯学習課長>

基金として積み立てをして、その積立金の中から必要に応じて教育施設等の整備に使うためのもので、平成29年度末で1億7,000万余の残高となっています。それを一部、国体関係で今回取り崩しましたが、そこにこの720万円を積み立てるものです。

<委員>

普通の基金ではないのですね。普通の基金だと、元の金はずっと積み立てて、それを運用した運用益で使っていくという解釈ではないのですね。

<教育政策・生涯学習課長>

そうです。

<委員>

主にこういうものはどういうものに使っているのか。

<教育政策・生涯学習課長>

平成30年度は、国体の事業費に一部取り崩しをさせていただいております。その前は、豊小学校の建設時、あと鯖江公民館の建設時にも一部取り崩しをさせていただいている経過がございます。

<教育長>

今、この基金、残高は幾らになっていますか。今年、国体で2億ほど予定していたと思いますけども。

<教育政策・生涯学習課長>

昨年度末で1億7,000万余ございまして、そこから、国体用に1億程度取り崩すということでございましたけれども、今回また補正をさせていただき、最終的な残高をちょっと確認した上で。

<教育長>

最終的でなく、今年度当初予算の段階で幾らあったか、幾らになる予定か。

<教育政策・生涯学習課長>

1億7,800万程度だったと記憶しております。

<教育長>

そんなにあったか。

<教育政策・生涯学習課長>

調べてご報告いたします。

<教育長>

あと、国体・スポーツ推進課のこの減額、4,800万円になったということか。

<国体・スポーツ推進課長>

そのとおりです。

<教育長>

こちらのほうの要求は4,772万8,000円の減額だったのを4,800万円減額、これでおさまるのか。

<国体・スポーツ推進課長>

要求当時と少し変動部分もございまして、これぐらいの余裕はあるというふうに見込んでおりまして、この金額でも大丈夫と判断しております。

<委員>

空調設備は音楽室で、ほかの特別教室は全部終わっているのか。

<教育政策・生涯学習課長>

普通教室につきましては100%設置済みでございますが、特別教室にはついていないところがほとんどでございましたので、今回、特に音楽室を整備していく予定でございますけれども、まだそのほかの家庭科室ですとか理科室等は未設置でございます。

<委員>

そうすると、来年度予定ということですか。

<教育政策・生涯学習課長>

ほかの特別教室につきましては、財源等の確保とあわせて、今後計画をしていきたいと考えております。

<教育長>

ほかに質問等がなければ、議案第1号、3月補正予算につきましては、このとおり承認することよろしいか。

(異議なしの声)

〈教育長〉

議案のとおり承認することとする。

議案第2号 平成31年度鯖江市教育委員会当初予算要求の概要について

【説明】

教育政策・生涯学習課長、文化の館副館長が「平成31年度鯖江市教育委員会当初予算要求の概要について」説明

【質疑】

〈教育長〉

ここで一旦切り、ここまででご質問等をお願いします。

〈委員〉

この中に網かけの市長査定項目があるが、これは受ける基準というのがあるのか。

〈事務部長〉

その年度に新しい事業とかを、まず財政課長レベルでのヒアリングを行い、市長に判断してもらいたいものが市長査定に上がるということです。

〈委員〉

豊小学校の変圧器200万ほど出ているが、変圧器まで使用者が見なければいけないのか。北電の管轄でないのか。

〈教育政策・生涯学習課長〉

変圧器というふうに書かせていただきましたが、受電設備の中のことでございまして、学校が一旦電気を受けて、施設の中へ配電する設備の中で、一部容量が不足しているものにつきまして変更といいますか、増設をさせていただくというものでございます。

〈教育長〉

次に、学校教育課、お願いします。

【説明】

教育審議官が引き続き説明

【質疑】

〈委員〉

8ページの上から2番目のバスの運行事業に関して、これは今まであったんですよね、予算30年度。養護学校に鯖江市の子供たちが通っているその負担、そうですね。

〈教育審議官〉

そうです。

〈委員〉

何人ぐらい。

〈教育審議官〉

今、8か9です。

<委員>

南養護学校か。

<教育審議官>

南と福井養護の2カ所です。たしか9名だったと思います。確認します。

<委員>

3校ぐらい行っているということか。南越とかも。

<教育審議官>

南越のほうは、学校が独自にバスを持っておりますので、一応、こちらの鯖江市のほう  
は福井のほうへ行くということで、南越のほうは基本、東陽校区の、どちらかというと東  
側の方が行く場合はあるんですけども、基本こちらの北のほうといたしますか、福井のほう  
へ行くようになっております。

<委員>

全部学校のスクールバスが運行されているのかと思ったが、今のお話を聞いていると、  
これは運行されてない学校へ通う子供さんの補助金というような形になるのか。そうでは  
ないのか。

<教育審議官>

運行されてないというよりは、こちらのほうにルートが、回る道がないということだと  
思います。

<委員>

保護者の方が責任を持って通学させているという、そのための補助金というような形と  
受け取ればいいのか。

<教育審議官>

そうです。補助金です。

<委員>

2つ目は、その下のほうにスクールソーシャルワーカーの賃金に2人で、72万円と9  
6万円。これはやっぱり勤務時間の違いか。

<教育審議官>

これは資格を持っているか持っていないかの違いです。社会福祉士とかの資格を持って  
いるかどうかの違いです。

<委員>

わかりました。もう1つは10ページですが、一番上の部活動の指導員の配置事業です  
ね。国もついていると思うが、もう少しこの中身を詳しく説明していただけたらありがた  
い。今までも2人ほどありましたよね。

<教育審議官>

説明不足で申しわけございません。こちらの事業としましては、今、市内3中学校に1  
名ずつ配置されております。総時間が540時間。平日が2時間の4日間です。土日につ

きましては、土曜日、日曜日どちらかの4時間までということで、トータル540時間と  
いうことでお願いをしております。

<委員>

それが30年度と31年度、大差ないですよ。それで、大体下のほうの国が3分の1  
で県が3分の1補助というのはわかるが、新たに新規でしょう。その辺がちょっと理解で  
きないが、30年度はその3校に配置されている3名の方のお金ですよ。

<教育審議官>

そうです。

<委員>

ちょっとその辺がよくわからない。

<教育審議官>

これは新規でございませぬ。新規というのが間違いです。申しわけございませぬ。

<委員>

わかりました。

<委員>

今の件、部活動の補助というか、協力員をさらに増やしていこうという傾向はないのか。

<教育審議官>

鯖江市としましては、今さらに数を増やして要求していきたいという意向はございませぬ。  
ただ、これはあくまでも県からのそれぞれの市町における割り当てがございませぬ、その  
割り当てに従って、今3名ということで予算等も要求させていただいております。

<教育長>

話を聞くとところによると、鯖江の場合は3校とも1人ずつお手伝いしてもいいという方  
が、教員のOBの方でいらっしゃるの配置できているが、市町によっては補助対象には  
なるけれども、人がなかなか見つからないということで、配置が全校に行き渡っていない  
というところも聞いている。ですから、そういうところの分を分けてもらえないかという  
ふうな話も、私個人的には思うけれども。これもふたをあけてみないと結局、基本はやっ  
ぱり1校1人、それを全校に配置していこうというのが、まずは基本のような感じですよ。

<委員>

一般的な流れとして、国もそうですし県もそうですが、やっぱり部活動の時間が多忙化  
につながるということで、やっぱりだんだん社会体育の方向へ持っていこうとする傾向が  
ある。だから、昨年度よりもやはり少しずつでも増やしていく傾向でないと、何か矛盾す  
る。また教育長、会議でもありましたら、県のほうに積極的に話していただけたらなとい  
うことを思っている。よろしく申し上げます。

<委員>

8ページの生活学習支援員のところでですけど、鯖江市は37名入っているが、とても市  
がそういう人数を確保して、支援学校に支援して下さっているということで、すごく中

からも外からも好評ですが、この37名という数ですが、学校から要望がありますよね。このぐらい要るので、このぐらい人数が欲しいとかという。それと照らし合わせたときに、この37名という人数は来年度の場合、どうですか。

<教育審議官>

これは実は昨年1名増やさせていただいたのが、30年度の低学年サポートという県のほうの事業になりますけども、そちらの数が減るということでの1名増でした。31年度につきましては、その低学年サポートの事業に関しまして、鯖江市内の小学校の低学年に関しましては、30年度に比べて多少多く充てられるのではないかとということもありまして、実はもっと増やしてほしいという状況ではございます。ただ、今そうやって低学年サポートが31年度は30年度に比べて手厚くいただけるのではないかとということで、来年度に向けましては現状維持ということでやらせていただいております。

<委員>

昔に比べると要望が増加傾向にあるのか。

<教育審議官>

そうです。

<委員>

今、教育維新という、教員休日労働は残業だということで、働き方指針案を明記するというふうに新聞に出ていた。これが2018年度に文科省が指針を策定して、都道府県のほうへ通知すると書いてあるが、これらについての教員の働き方改革についての対応というのはこの中に入っているのか、予算の中に。

<教育審議官>

委員さんご指摘の件に関しましては、この項目の中であえて言うならば、部活動指導員配置事業かと思います。それから、あと8ページの、英語に親しむ活動事業などで外国人講師をつけることですか、その上の不登校対策でチャイルドセンターの配置員をつけていただくことですか、こういったことが直接、間接かは何とも言えないのですが、教員の多忙化解消にはつながってくるのかと思います。

<委員>

9ページの学校運営支援員もそうですよね。

<教育審議官>

そうです。まさにそうです。

<教育長>

それでは、文化課、引き続いてお願いします。

【説明】

文化課長が引き続き説明

【質疑】

<教育長>



兜山古墳の来年3,420万で、実施設計と一部工事請負費、工事はどの辺をとりかか  
るようになるのか。

<文化課長>

31年度の工事につきましては、現地、委員の先生方ご存じかどうかわかりませんが、  
八幡神社という、神明苑のすぐ北側に神社がありますが、その神社の森が兜山古墳の丘で  
ございまして、31年度につきましてはその丘に生えている木を基本的に伐採するという  
工事内容を考えております。

<委員>

旧北陸道というと、大体旧・旧国道がそうか。

<文化課長>

おっしゃるとおりです。

<委員>

樹木は、どの辺を伐採されるのか。

<文化課長>

神明苑のちょっと北側に行ったところに兜山古墳という八幡神社の境内地があるんです  
けれども、我々の目的は古墳の形を当時の姿に復元して、一般の方に理解してもらいやすい  
ようにするというのが目的ですので、あまりこんもりしているとただの山にしか見えませ  
んので、ある程度、見学者の見通しがいいように木を間引くということが目的です。

<委員>

兜山古墳のところですね。

<文化課長>

そうです。

<教育長>

今、委員がおっしゃったのは、ふるさと広域景観形成って、こっちのほう。

<文化課長>

失礼しました。まず、旧北陸道は旧・旧国道という南北に細長い道なんですけれども、  
旧瓜生家住宅というのが、今ほど申しあげました神明苑の道を挟んで南側にあります、神  
明社の境内の角っこにあるんですけれども、その旧瓜生家住宅周辺がやっぱり同じように  
神明社の社叢林ということもありまして、木が鬱蒼としていまして、やっぱり見通しが悪  
い、見えないということで、同じように少し木を間引かせていただいて、北陸道を往来す  
る見学者の方が、旧瓜生家住宅があるなというふうにわかるような景観にするという。

<委員>

神明神社のところですね。

<文化課長>

はい、そうです。

<委員>

文化センターの管理運営費のところで説明があったのは、今まで委託してたので5,600万かかったが、今回、直営にしたら1,800万って説明だったが、こんなに違うものか。

<文化課長>

すみません、説明不足です。5,600万というのは、指定管理者委託ということで、いわゆる施設運営管理プラス事業費も含まれておりましたので、今回はもう完全に施設の運営のみということになりますので、この数字に下がります。

<委員>

ということは、事業費が下がったということか。

<文化課長>

事業費が丸々落ちたということではなくて、指定管理者に委託している、今現在の状態ですと、職員が6名ぐらいいらっしゃいますので、その人件費が大幅に落ちているというのが主な理由になります。

<委員>

6名でやっていたやつが2名でできるということですか、逆に言うと。

<文化課長>

はい。その理由がいわゆる自主事業といいますか、その指定管理者の皆さんが営業活動で引っ張って来て講演をするというのが、基本的には7月いっぱい終わるということで、その辺の人件費の減が見込めるということでございます。

<教育長>

とにかく文化センターは7月いっぱい一旦閉めるということですね。閉館で、2年間でしたか。

<文化課長>

はい。

<委員>

文化センターの補修関係ですが、耐震が一番大きな目的ですよ。そのほか、やっぱりきれいにしていく段階で、内装なんか少しは変わると思うが、この予算の中でどの程度まで期待できるのか。

<文化課長>

純粋な耐震補強工事以外で、大きく変わるというところでは、正面のホワイエというふうに我々呼んでおります正面ホールがございますけれども、その入り口の景観と、それからホワイエに入った内部を、要するに、地域交流センターって、我々は今仮に呼んでおるんですけども、地域の皆様が集って、小さなイベントをしていただけるような空間に改造するというのがまず1つと、それから、それに伴って、現在、特に地下トイレ等が、いまだに和式トイレが主体になっているところがありますので、そういったトイレの洋式化、改修が主な大きく変わる点になるかと思えます。

<委員>

予算の中に入るとは思うが、中の通路の後ろ側、通路の境にボードみたいなものがある、一番前列のところはずっと。あれ、ほんとうに壊れやすくて、何回も割れたり、穴があいたりして補修がされていると思うが、あれも同じものにするんじゃなくて、ちょっとだけいいものにされると、ちょっとは変わっていいのかなと思う。随分映えると思うが。

<文化課長>

基本的に、耐震補強工事プラスアルファということで国の補助金もとってきていますので、その辺は今からちょっと協議して考えていきます。

<委員>

ふるさと鯖江検定、今年度、要求額が減っているが、これは何か変更があったのか。

<文化課長>

これは検定に合格された方には、さばえふるさと博士という認定証、記念品を贈呈しておったんですけども、今までは石田縞で織ったちょっといいものを差し上げていたんですけども、今年から変えようかなと思っているんですけども、立待地区で今地元の方が一生懸命やっていたらフタバアオイを和紙の中に織り込んだ認定証をお渡しするというので、若干予算が下がりますので、その辺の減額になります。

<委員>

わかりました。

<教育長>

今の文化センターの工事と関連して、例年、小中学校の連合音学会をここで開催していたが、来年、再来年、福井の県立ハーモニーホールで実施したいということで、小学校の音楽研究部会の部長さんから話がございまして、文化センターがこういう状況なので、ハーモニーホールの使用料分だけ今までよりも増額で助成をさせていただくということで、2年間は向こうで開催するというので今話を進めているので、関連して報告をする。

<委員>

バス代はプラスアルファにならないのか。

<教育長>

バス代は意外と変わらないと言っておられた。

<委員>

音楽堂は場所が小と大と2つある。今、お借りするというのはどちらのほうか。

<教育長>

大きいほうだと思う。

<委員>

小学校や中学校はみんな小でやっている。学校の学生がやっているのは小の会場を使ってやっている。僕が思っているのは小のほうが安いと思った。

<教育長>

1,000人入りますのと、保護者の方が学校ごとに来られて席を使うので、やっぱりある程度の数が必要かと思う。

<教育長>

それでは、次に国体・スポーツ推進課、引き続きお願いします。

【説明】

国体・スポーツ推進課長が引き続き説明

【質疑】

(なし)

<教育長>

次に、子育て支援課、お願いします。

【説明】

子育て支援課長が引き続き説明

【質疑】

<委員>

幼稚園広域入園委託事業が約倍ぐらいになっているが、ということは、鯖江市内から鯖江市外のほうへ幼稚園児が行っているのが倍ほどになるということか。

<子育て支援課長>

今年も2名分持っておりまして、結局はゼロ、使っていない状況です。来年度分要求につきましては、1名は決まっておりますので、その1名プラス例年の2名分を予定という形でさせていただいて、3名分という形の人数でございます。

<委員>

わかりました。

<委員>

2つ質問をお願いします。1つ目は、幼稚園にも支援員さんがいますよね。その予算というのは项目的には上がっていないが、どこから捻出されるのかということと、2つ目は、なかなか私自身もよくわからないが、預かり保育事業夏季・冬季休業のこれは、ここに上がっていない幼稚園というか、鯖江幼稚園、進徳幼稚園、それから、細かく言えば、ゆたかこども園の短時部の子供たちも同じような気持ちで保護者はいると思うが、やっぱり預かり保育のこういうのがたくさん出てくると、保育料を払ってでも、しばらくでも預かっていただけないかなというのは、今でもよく聞こえてくる。だから、やっぱりその辺は、進徳とか鯖江幼稚園も上がっていないところを見ると、こども園化してくることで上がってないのかなと自分の中では考えているが、そこら辺の説得が必要かと思う。

<子育て支援課長>

まず、支援員さんの賃金につきましては、幼稚園の管理諸経費、ちょっとこちらでは上げてございませんが、その経費でもちましてほかのクラスの幼稚園の先生方につきましてもそこで全部見ているというような形でございます。

<委員>

上がってないだけ、別枠で持っているということか。

<子育て支援課長>

そうです。それと、今の預かりのことですが、委員さんおっしゃったように、今鯖江幼稚園とか進徳幼稚園につきましては、今後こども園化という形で今見てはいないということです。今、鯖江東幼稚園と神明幼稚園につきましては、実は幼稚園のほうからちょっと要望がございましたので、そういった形で今回要求をさせていただいているという状況でございます。

<委員>

要望をすれば、これはしてもらえるとということか。

<子育て支援課長>

今、こっちは網かけしてありますように、これは今から市長査定という形で、ここから計上されるかどうかというのをまた話をさせていただくというような形でございます。

<委員>

やっぱり見てほしいなとか行けないのかなとか、そういう声やっぱりある。だから、こういうふうに夏休みとか冬季のこういうときの保育のこれ、入ってくると、園を通してでも、保護者の人に聞かれたら、園長先生なり副園長先生がきちんと説明ができるようにして納得していただけるような方向になっていくと、クレームがないのかなと思う。だんだんこうやって増えてくると、片上とか北中山は前から入っていても、そこは保育所や保育園がないからと言って、してもらえて納得がいくと思う。でも、こうやって入ってくると、やっぱりこども園化していても、短時部の子供たちは幼稚園と同じようなつもりで家族の方はいらっしゃるわけで、なかなかこころが理解してもらうのには苦しいところがあつて。

<子育て支援課長>

委員がおっしゃったとおり、片上と北中山につきましては保育園がないという地域性がございましたので、そういった形でございますが、今回も鯖江東と神明幼稚園につきましては子育て支援の充実という意味合いもございますので、そういった意味合いからお話をさせていただいて、市長査定で予算が計上されるようになりましたら、そういった形でよく市民の皆様が納得できるような形で、またご説明をさせていただきたいと思っております。

<健康福祉部長>

これは保護者からのご要望があつたということで今回要求をさせていただいているわけですが、幼稚園教諭なりにつきましては、保育士、幼稚園教諭ともにですけども、人材不足が顕著でございまして、幼稚園教諭自体が集まらない状況でございますので、一応、市長査定に上げさせていただいておりますが、支援員さんも集まるかどうか、児童センターの厚生員なんかも今なり手がなくなつてくるような状況でございますので、こころが

てはちょっと痛しかゆしで、やりたいんですけどもやってくれる人材がないというのも現実でございますので、そこら辺のところについても今後も慎重な対応をしていきたいと。これはずっと広げていくというのはちょっと厳しいかなと考えているところでございます。

<委員>

こども園は先生がいらっしゃるので、一緒にこういうふうには保育料を出すんだから、先生たちは勤務なので見ていただけないかなという要望がやっぱりあるんですよ。それがほんとうのところなので。

以上です。

<教育長>

私も今思っていたんですけども、基本的に単独園で休業期間の預かり保育をやろうとすると、今関わっている幼稚園の先生は、基本的にはこれには関わらないというのが原則なはずなんで、それ以外に2人ほどずつ人が確保できるのかなというのが1つありまして、どうなんかなというのがあって、今部長が心配をしておられましたけども、なかなか難しいなと思ってお聞きをしていました。

<健康福祉部長>

今、教育長がおっしゃったとおりでございます。予算が通りましてやるということで走った場合には、支援員さんが集まらない場合は最悪、今いる幼稚園教諭の先生方にちょっと交代で支援員の仕事をさせていただかなあかんことも発生するとなると、それこそ教員の多忙化じゃないんですけども、幼稚園の先生が、普通、園児が帰った後には実際の先生方のやるべきことがあるので、そちらをやっていただいているのがやる時間がなくなって、夜残ってしなければならないとか、いろんな問題も出てまいりますので、何とか支援員さんを配置できるように、それを最優先に考えていきたいと考えております。

<教育長>

人の問題はなかなか難しい問題ですね。あと、今、幼児教育の無償化という話が出てくると思うんですけども、あれはどういうふうになるんですかね。何か情報をつかんでいらっしゃるのがありますか。

<子育て支援課長>

県のほうからこうやった形でという確定したものはまだ現時点ではないです。今回、来月になるとまた石川県のほうで内閣府からの説明等がございますので、そういった形でいろいろ情報が入りましたら、またこちらでご説明をさせていただきたいと思っております。

<教育長>

わかりました。ほかに委員の方からご質問等ございましたら、お願いをいたします。ただいま説明をしていただきました31年度当初予算の全体を通して、もう一度確認しておきたいということがありましたらお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

<委員>

文化課の中の11ページの、さっきも思っていたんですけど、でも、やっぱり心残り

なので、11ページの上から3番目の近松が生まれたまち発信事業の予算なんですけど、すごく発信してくださっているでしょう。成果も出ているじゃないですか。でも、よくよく考えてみると、予算が少しアップはされているんですけど足りるのかなという心配があって、これからの思いも考えると、どこかからやりくりして融通をして、少し増やすなんていう必要はないんですかね。それが心残りなんで。変な話がポケットマネーも出ていることはないのかなとか、要らん心配をしまして。

<文化課長>

文化課長として、1年間担当いたしました思っただのは、やっぱり地元の皆様が自主的に動いていただいておりますので、市の予算の措置としてはもうこれで十分かなと私は思っております。ほんとうに地元の方が率先して動いているというのがありますので、これで十分かなと思います。

<教育長>

部長、何かありますか。

<まなべの館館長>

非常にお答えづらいこともありますので、確かにこれ、予算200万というあれですけど、ほとんどがこれ近松座が100万ですね。それから、観月の夕べが70万ですから、ほとんどその2本しか市の予算はついていないという現状でございます。私個人的にはもっとたくさんいただきたいなと思いますけど、なかなかいろんなバランスもありますし、地元のほうで結構ほかの補助金をとってきてやっているということもありまして、かなり地元自身もそういうところで自主的にやっていただけたところもありますので、そのあたり、正直近松だけなかなか突出するというのも、鯖江地区は間部さんで頑張っていますし、河和田地区は継体大王で頑張っていますし、突出するのなかなか難しいかなという面もありまして、また地元のほうといろいろ協力しながら、近松、これ、せっかく生まれたまちというんで、28年で一応生誕説というのも三好先生が発表していただきましたので、そのあたりまた地元のほうともうまく協力しながら、近松の生まれたまちというのも発信していきたいと思っています。

<委員>

ありがとうございました。

<教育長>

ほかによろしいでしょうか。

<教育審議官>

先ほど特別支援学校の通学送迎バスの補助にかかわるところで、9名とお答えさせていただきましたが、7名の間違いでございます。訂正させていただきます。

<教育政策・生涯学習課長>

先ほどのお尋ねの教育振興基金の平成29年度末残高でございますが、1億7,840万円でございます。

〈教育長〉

そこから、今年国体に入れるお金は幾ら予定してました。一応、5,000万でしたか、1億でしたか。

〈教育政策・生涯学習課長〉

1億です。

〈教育長〉

7,000万ほど残っているところへ、今回720万を積み立て増加する、プラスするということか。

〈教育政策・生涯学習課長〉

はい。

〈教育長〉

それでは、31年度の教育委員会関係の当初予算案につきまして、原案のとおりご承認いただけますでしょうか。

(異議なしの声)

〈教育長〉

議案のとおり承認することとする。

#### 議案第3号 平成30年度鯖江市教育委員会感謝状授与の決定について

##### 【説明】

教育政策・生涯学習課長、文化の館副館長が「平成30年度鯖江市教育委員会感謝状授与の決定について」説明

##### 【質疑】

〈教育長〉

議案第3号に異議はないか。

(異議なしの声)

〈教育長〉

それでは、今回ここに掲載されております31人の皆さんに感謝状を教育委員会としてお贈りするということで、決定をさせていただきます。

#### (3) 教育長の報告

①男性教職員による不祥事について

#### (4) その他

① 平成30年度卒業式日程および委員の出席割振りについて

② 次回開催予定等について案内 : 2月22日(金) 午後3時から開催

3月教育委員会開催予定について調整 : 3月22日(金) 午後3時から開催



議事録署名人

福岡 俊孝

議事録署名人

中村 知恵